

令和3年度第2回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録

日 時	令和3年6月29日（火）14：00から15：45まで
場 所	蒲郡市役所 303会議室
出席者	（委員）16名出席 ※別紙出席者名簿のとおり （事務局）子育て支援課：部長、次長、主幹、主幹、課長補佐、指導係長、主事
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度第2回蒲郡市子ども・子育て会議 次第 ・資料1 子ども・子育て支援事業計画の令和2年度進捗状況の点検・評価について ・書面会議資料3 次世代育成支援行動計画の進捗状況について ・書面会議資料4 令和3年度子ども・子育て会議の日程について ・委員名簿 ・子育てコンシェルジュだより、子育て支援ガイドブックにここに

議事：（進行）事務局 高橋晃健康福祉部子育て支援課長

- 蒲郡市保育園父母の会連絡協議会代表 欠席
- 学校教育課長 欠席
- 健康推進課長（代理岡本主幹）
- 資料の確認

1 あいさつ

（渡辺会長） 皆さん改めましてこんにちは。よろしくお願ひいたします。昨日広報がまごおりの7月号が届きまして、見ていたら新しい事業の「忙しいお母さんを応援、家事支援事業」というのが紹介されていまして。私も使いたいなと思って見ていたら、対象は3歳までのお子さんのいる家庭ということで、残念だなと思いながら見ていましたが、子育て中のお母さんが、家事のことを考えなくて、子供と向き合える時間というのは本当に嬉しい時間だと思うので、これからどのくらい利用されていくかなというのは少し楽しみです。よろしくお願ひします。さて今日は、令和3年度2回目の子ども・子育て会議で、そして2回目のオンライン会議ということで、私もなかなか慣れなくて大変ご迷惑をおかけしてしまうかもしれませんが、どうぞよろしくお願ひいたします。

2 健康福祉部長あいさつ

（健康福祉部長） 皆さんこんにちは。健康福祉部長の岡田です。子育て支援は、市の最重要施策の一つとして位置付けられておりまして、今回事務局となっております、子育て支援課だけでなく、委員として参加していただいております、福祉課や健康推進課、教育委員会をはじめ、市全体で組織横断的に取り組んでおるところでございます。この子ども・子育て会議は、子育て支援の各種事業が円滑に実施できているか、委員の皆様にご覧いただきまして、改善のご意見をいただく場として、本市の子育て支援の中核をなす会議体となっております。第1期の計画、これが平成27年度から令和元年度までの5年間、毎年委員の皆様から、計画の進捗状況に関しまして、活発なご意見をいただくこ

とで、制度の充実や事業内容の改善をしていくことができました。今回、委員の皆様にご点検・評価いただいております計画は、第2期、令和2年度から令和6年度までの5か年を計画期間として、前計画の基本理念であります、みんなで育てよう子供の笑顔輝くまち蒲郡を継承するとともに、子供ファーストに基づいた、子育てしやすい、最適な環境整備に努め、行政と市民の皆様が一緒になって、ワンチームで子育て支援施策の推進を目指して実施しているところでございます。第1回目の会議につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために書面会議となりましたが、そのような中でも委員の皆様からたくさんのご意見をいただき、子育て支援課の方も大変感謝しているというふうに伺っております。今年度は、委員の入れ替わりによりまして、新たに5名の方に委員に就任していただきました。また新しい視点でご意見を頂戴しまして、引き続き充実した会議になりますことをお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 委員の紹介

○事務局 高橋子育て支援課長より説明

4 「蒲郡市次世代育成支援行動計画」、「蒲郡市子ども・子育て支援事業計画」について

○事務局 高橋子育て支援課長より説明

5 議題

(1) 子ども・子育て支援事業計画の令和2年度進捗状況の点検・評価について

○事務局白井から説明

評価書の見方の説明

●事業番号1 1号認定（3歳以上保育の必要なし）

資料を改めて、次回の会議で説明

●事業番号2 2号認定（3歳以上保育の必要有り）

資料を改めて、次回の会議で説明

●事業番号3 3号認定（3歳未満保育の必要あり）

資料を改めて、次回の会議で説明

●事業番号4 時間外保育事業（延長保育事業）

（事務局辻村からの説明）

質疑応答

（渡辺会長） 去年はコロナで、時間外保育事業がすごく増えたとか減ったとか、何かありましたでしょうか。

（事務局白井） 特に影響なかったかと思います。

（事務局高橋） 時間外保育事業は今後充実していきたいというふうに思ってますけれども、今年度の話になりますが、塩津保育園で延長保育の拡大をしております。今まで午後6時までの保育でしたけれども、これを今年度から、午後7時までに拡大をしております。

（渡辺会長） 塩津保育園では、午後7時までの拡大がされたということで、さらに使いやすくなってきたということですね。

●事業番号5 放課後児童健全育成事業（児童クラブ）

（教育委員会庶務課柴田委員説明）

質疑応答

（渡辺会長） 放課後児童健全育成事業につきまして何かご意見がありましたらお願いいたします。利用申し込み数は775人で、確保方策よりも増えているけれど、この子たちは全員は入れたっていうふうに考えていけばよろしいですか。

（柴田委員） そのとおりで結構でございます。

（渡辺会長） はい。ありがとうございます。夏休みがすごく多くなりますが、それに対しても対処していけるということですか。

（柴田委員） 学校によっては、若干、お待ちいただいている方がいらっしゃいます。

（渡辺会長） 他に、何かありましたらお願いいたします。

随分充実してきてたくさんの児童クラブが出てきていて、本当にありがたいことだと思っておりますが、さらにこれを拡大していくというようなことは考えてみえますか。

（柴田委員） 現状ではですね正直なところ、これ以上の拡充はできないかなど。一応学校の部屋を利用してはありますが、それが学校によってはできない、部屋がないというようなこともございます。それとあとですね私どもとしては正直なところ、これを本音でこの会議で言っているのかどうか分かりませんが、子育て支援課へ元へ戻したいという考え方を持っております。学校との協力がこれで一区切りついたかなというふうに正直思っておりますので、この体制を変更したいなというふうには考えております。今年の課題としてそれが上がっておりますので、私どもとしてはそういうことを、子育て支援課と話をしたいと考えております。実際のところこの状態でいいという状況ではないですが、まだ、児童館等を利用していることもありますので、それがすべて受入れるだけの教室キャパがないのも事実でございますので、その辺をどうするかというところはまだ少し課題としては残っておるところです。

（渡辺会長） ありがとうございます。いろんなことを考え合わせていくと、たくさん検討していくことがまだあるということですかね。はい。それでは、夏休みの児童クラブがまた円滑にできるように、またよろしくお願いいたします。

●事業番号6 子育て短期支援事業（ショートステイ）

（事務局柴田から説明）

質疑応答

委員からのご意見は特になし

●事業番号7 地域子育て支援事業（子育て支援センター事業）

（事務局小林から説明）

質疑応答

（渡辺会長） 既存の子育て支援センターが3ヶ所とありますが、コロナで、例えば非常事態宣言が出されてるようなときは、どのような対応だったのでしょうか。

（事務局小林） 人数の制限、1時間での利用制限、もしくは、宣言が出ている間は、予約の申し込みのみというような制限をかけていました。

(渡辺会長) ありがとうございます。本当に緻密にやっただいていてと思いますので、今後とも、ニーズの把握に努めていただいて、良い事業になっていくといいなと思ってますので、よろしく願いいたします。

●事業番号8 一預かり事業

(事務局岩瀬から説明)

質疑応答

(渡辺会長) 府相保育園と三谷西保育園の利用者の多いところについて、利用制限がかけられたということで、何か変えていくことは可能なのでしょうか。

(事務局岩瀬) コロナ禍によりリフレッシュでの利用で、お断りしたのはすべての園ですが、三谷西保育園と府相保育園は利用希望者が普段でも、とても多いので、園長先生たちが調整をしながら、日程を代わってもらうような方には、保護者の方にも声をかけていただきながら、調整をしていますが、お断りせざるをえないという方は、府相保育園と三谷西保育園だけは特に多いです。

(渡辺会長) その保育園でそういう対応するということになるわけですか。そうではない。もう断ってしまうという。

(事務局岩瀬) それでほかの保育園でしたらいけるかもしれませんよということは案内しています。

(丸山委員) 三谷東保育園の丸山です。よろしく願いします。昨年まで府相保育園におりましたので、一時預かりについて少しお話させていただきます。一時預かりで、割と空いている保育園をご紹介します、そちらでもいいとおっしゃってくださる保護者が見えたらそちらの方へ行っていただく形をとっていただいております。

(渡辺会長) 潜在的に府相保育園と三谷西保育園は、多いということから、その他の保育園を増やすといったことはないのでしょうか。

(丸山委員) そうですね。近くというと、大塚西保育園、塩津保育園を紹介させていただいておりましたが、中心部のお子さんが利用されるケースが多かったので、府相保育園と三谷西保育園を選んでくださる方が多かったと思います。

(渡辺会長) 何かこの解消する方法とか、考えられているのでしょうか。

(事務局金沢) はい。子育て支援課の金沢です。現在のところ一次預かりの保育園を増やすというところの計画はありませんので、そこで何とか近隣の保育園を利用いただきながら、できるだけ調整がうまくいけるように行っていきたいと考えております。

(渡辺会長) ありがとうございます。なるべく、増えていくといいなというところでしょうか。

●事業番号9 病児保育事業

(事務局岩瀬から説明)

質疑応答

(渡辺会長) 量の見込み17ということと、それから新規登録の児童の方が20人ということなのですが、使いづらいとかそういうことで、人数が減っているということではないということですかね。

(事務局岩瀬) 登録は事前登録です。病院の中であれば、その受診をした後にそのまま利用できれば、すごく使いやすいと思います。けれども蒲郡市は難しいので、ここで少し労力がかかる

など思われて、あとは祖父母が協力的なので、自分は会社ですが、面倒見てもらえるという方が、蒲郡はいるのではないかと感じます。

(渡辺会長) 使いづらいということであればいいなと思いますが、今、話があったように、病院の中にあるというのも一つの手だと思います。そうすると使いやすいと感じるところでもありますので、もしまた、検討できればお願いしたいと思います。

●事業番号10 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）の就学児童対象部分

（事務局柴田から説明）

質疑応答

委員からのご意見は特になし

●事業番号11 利用者支援事業（子育てコンシェルジュ）

（事務局白井から説明）

質疑応答

(渡辺会長) 先ほど白井先生から、説明があった子供というのは18歳までの子供を対象にしているというお話でしたけれど、そういうことの周知などは、どのようにされているのでしょうか。

(事務局白井) 周知はホームページなどでしています。でもどうしても私達に来る相談は、実際子持ちのお母さんという方が圧倒的になっています。

(渡辺会長) 先生とうまく繋がりができていけば、例えばこれから大きくなったお子さんが、1人で相談に来るということもある事が想定されます。それからこの事業が充実していくことがまず大事ということですかね。

(事務局白井) はい。あとは蒲郡市内にいろいろ大きいお子さんの、またその上のいろいろな問題を抱えた人たちの相談窓口がたくさんありますので、そちらにこちらが上手に、タイムリーにつないでいければいいかなというふうに考えています。

(渡辺会長) ありがとうございます。やっぱりこの子育てコンシェルジュというのは、いろんな機関をつないでいくための、とても重要な役割をされてると思いますので、ぜひ、周知と利用ですかね、うまく利用できるようなことをしていただくとありがたいと思います。

それからちょっと私が思っているのは、今白井先生が言われたように市内にはたくさん子供に関する相談の窓口があるわけですが、やはりいろんなところにあって、1ヶ所に行ってワンストップで相談という形がなかなか難しいんじゃないかなと思うので、またそれが蒲郡市の中で、うまく調整できて、1ヶ所どこかに行ったら、すぐに次のところに紹介がしていただけるような、そんな相談体制ができるといいなというのは常々思ってるところです。難しいでしょうか。想定してるのは豊橋のココエールなど、あのようになるいいなと思いますが、そのようにしなくても蒲郡は上手くいってるというのは、そういうことでしょうか。

(事務局高橋) 確かに相談窓口が、いろいろあるのはいいことなのですが、どこに行ったらいいのかという、その周知がターゲットに対して上手いことできてないのかもしれないですね。そういう部分は検証していく必要があるかなというふうには思っております。

(渡辺会長) できたら、一つのところに、相談窓口があって、すぐに次のというか、相談したい内容

に合った相談場所に相談ができるようなシステムになっていくといいのではないかなと思っておりますので、またよろしく願いいたします。

(事務局白井) はい。それから委員の皆様からお出しいただいた課題ですけれども、コロナ禍ゆえの新様式の導入などを検討した方がいいのではないかなということで、ご意見をいただきましたので、こちらでどんなことを取り組んだかというのを少し紹介をさせていただきます。

お家時間がとても増えましたので、今までですと、私たち街角コンシェルジュという、いろんなイベントだったり、こちらから出張相談会というものを企画して、いろんなところに出かけて行って、相談会とかも多くの頻度で行っていますが、こちらから皆さんの方に近づいていくということが非常に難しくなりましたので、直接会えなくても、少しやれるような取り組みを考えていこうということで、まず、公式のホームページをもう少し活用できないかということで、子育てコンシェルジュの部屋という、ページを持っていますので、そこで、まずこの家の時間を楽しく過ごせるように、親子でつくれるクッキングレシピというのを8編、簡単なものですけどね、おやつとか、それから、簡単な手づくりおもちゃ、これも8編。それから季節の行事を楽しもうということで、それは9編。その他に、あと豆知識で、いろいろな子育てアドバイスみたいなものも載せさせていただきました。お家の時間を楽しく過ごしていただけるようにということで、ヒントになったらいいなと思い出しました。それからうみのこの子育て世代包括支援センターの方では、少しまた、今度違った新しい取り組みを始めますので、その紹介を加藤コンシェルジュからします。

(加藤) はい。包括支援センターうみのこの加藤です。おうちの中で、なかなか外に出られないコロナがあり、児童館や支援センターで今まで楽しんでいた親子遊びができないなという声をお聞きしたので、何かできないかなということで、Zoomの配信形で、親子遊びを、15分ほど、毎週月曜日と木曜日に配信しております。参加者として、多いときには7組ほど、少ない時は1組ということもありますが、それで楽しんでもらえるかなということで、もう一つ目的として、参加いただくために、うーみんなビというものに登録していただきたいというのもありまして、こういう配信をさせていただいております。以上です。

(渡辺会長) ありがとうございます。コロナ禍ということで、新様式の導入をされているということで、見てなくてごめんなさい、また見させてもらいます。

それでは白井先生から最初の説明の中でお話があったこの指標の評価指標の②のところですが、今までは「-」でこれは数値としては比べられないからということでしたが、今回のように状況を見てみると、「○」でいいのではないかなということで「○」にさせていただきますが、この点についてはどうでしょうか。

はい、では、ご意見がないということで、「○」でいくということでお願いしたいと思っております。ありがとうございました。

●事業番号12 乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん訪問）

(岡本保健師から説明)

質疑応答

(渡辺会長) 7番の委員さんから出された課題で、コロナ禍ゆえの新様式の導入というようなことが書かれておりますが、何か導入されるようなことがありますか。

(岡本保健師) コロナ禍でも、こんにちは赤ちゃん訪問はどんなレベルのときでも、訪問をしていました。感染をしないように、お互いが体温も測り、マスクもし、アルコールが買えないときには、アルコールとかもプレゼントして、感染予防に努めて実施しておりました。委員の皆さんで、何か良い案がありましたら、ご意見いただけたらと思いました。

(渡辺会長) はい、ありがとうございます。やはり赤ちゃん訪問だから、会ってということが大事になってくるということですね。それでは委員の皆さんで何かコロナ禍ゆえの新様式の導入とか、何か良い案がありましたらお願いします。急にというのはなかなか難しいかもしれませんが、また次回でも結構ですので思いつかれたら、お願いいたします。

●事業番号13 養育支援訪問事業

(岡本保健師から説明)

質疑応答

(渡辺会長) はい、ありがとうございます。ここでもコンシェルジュが活躍されてるということ、今お聞きしました。何かご意見がありましたらお願いいたします。

保育士が2名増えたということで、かなり充実していたということでしょうかね、この保育士が、(2)の妊娠期及び産後間もなくといった時からの支援とかこういうところにも関わっていかれてるということでしょうか。

(岡本保健師) 相手の方のニーズに応じて、職種の方は決めておまして、保育士だと、少し大きくなって、お母さんがあやし方がわからないという方に一緒に行っていただいて、実際に、あやし方を教えてもらったりしております。

(渡辺会長) なるほど。ありがとうございます。こここのところもとっても大切な事業だなというふうに感じてますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

●事業番号14 妊婦健康診査

(岡本保健師から説明)

質疑応答

委員からのご意見は特になし

●事業全体をとおして

(鈴木委員) はい。愛教大鈴木でございます。たくさんにわたってありがとうございます。詳細にご報告いただきましたので、特にはありませんけれども、多分、今後、全体に絡むことかなと思ひますのは、例えば、病児保育みたいなところなんかですと、逆に男女共同参画、みたいな発想とかダイバーシティみたいな発想でいけば、そこに預けなくても会社を休めるという社会にすべきだという考えもあるのと同じように、この子育て支援というの、どこまでをサポートしてあげられることが、本当に子育てをしていく中で、望ましいことなのかというか、それよりも、実際にさっきの病児にみたいに休んで、できるような社会を作るといふことの方が、いいのかとかいふ常にかう、何かその辺は背中合わせの部分がたくさんあって、こうやって確保されることは大事かなと思ひますけれども、やはり社会全体として、子育てをしていくという観点に、偶に立ち戻らないと、本当に子育てをする親の支援にはなるけど

も、子供にとっては最善なんだろうかということも、常に裏返しにあるかなと思いつつ聞いています。でも、とにかくそこがいつも瀬戸際にあるということもありながら、でも必要なことはしなければいけないし、それから途中の最後の方にありましたような事業は大変大事であるし、数は少ないけれども、逆に潜在的に常に、本当に必要な人はなかなか発信してくれないという、そういう難しさもある中で、大変なコンシェルジュとかご苦労いただいているかなと思います。そういう意味で敬意を表します。引き続き、どうぞ子育てにやさしい蒲郡市というか、そういうメッセージのもとに進められることを期待します。どうもありがとうございます。

(渡辺会長) ありがとうございます。本当に今、鈴木先生がおっしゃったように、こういうことを充実していくことももちろん大事であるけれど、社会全体で、子供を育てていく。特に男性の、父親の参加ができるような社会にしていくという、そこもとても大事なことだなということも今、教えてもらってハッとしましたので、またその辺のところも考えていただいて、すべての事業を充実していきたいなというふうに思います。また今後ともよろしくお願いたします。

(2) 次世代育成支援行動計画の進捗状況について

●資料3 次世代育成支援行動計画について事務局白井から説明

質疑応答

委員からのご意見は特になし

(3) 令和3年度子ども・子育て会議の日程について

●資料4 令和3年度子ども・子育て会議の日程について事務局白井から説明

(4) その他

(事務局高橋) 近年、低年齢児の保育ニーズというのがかなり増えております。低年齢児保育というのは0歳から2歳の保育ですけれども、市内でも非常に入園者数、申し込み数が増えてきておりまして、既存の施設での低年齢児の受け皿を確保しておりますけれども、大変に苦しい状況が続いてきております。ただニーズが高まっているから、低年齢児の保育ニーズへの対応として、市としましては、民間事業者を活用して、小規模保育事業というものを、令和5年度4月開設に向けて、今、検討に入っております。小規模保育事業というのは、0歳から2歳児の低年齢児を保育する事業所、保育所になります。これは市が認可をしていく事業になります。具体的には、今年の3月に、3月末で閉園をしました塩津北保育園があります。この跡地を建物は壊しますけれども、この跡地を活用して、今後ここで、小規模保育事業を実施する事業者を募集していくという予定にしております。低年齢児がかなり増えてきて、これについて、民間の力も活用して、今後、受け皿を確保していくというこういう考え方は、昨年度策定しましたランドデザイン、保育園のランドデザインですね、保育園の将来のあり方を、方針を示しております。保育園のランドデザインというものにはこういった考え方の言及はされておりますけれども、子ども・子育て支援事業計画の中では、このような小規模保育事業を展開するというような位置付けが、実はございません。ですので、これについての子育て支援計画を変更していかなければならないというふうに思っております。次回の会議ですね8月の会議において、この小規模保育事業者の募集の概要ですとか、それ

から、子育て支援事業計画の変更案など、お示しできればと思っておりますので、またその際には、ご討議をお願いしたいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

(渡辺会長) ありがとうございました。ちょっと聞いてもいいですか。大体何人ぐらいの対象人数を考えていますか。

(事務局高橋) 小規模保育事業は、定員は19名。19名以下で保育します。

(渡辺会長) 0歳から2歳までで、19名以下。ありがとうございます。何かご質問ありましたか。

(事務局柴田) 高橋次長の方から、低年齢児、0歳児ですかね、爆発的に募集が伸びたということで内訳としては今のところの予定としては、0歳児6名、1・2歳児は13名、合計19名を予定しています。

(渡辺会長) 塩津北保育園の芝生が綺麗なので、どうなるのかしらと思ってたんですけど、活用ができるというのは嬉しいですね。

(事務局高橋) そうですね。実はもう1個、跡地の利用計画がありまして、先ほど小規模保育事業で、保育園の面積全部は必要なく、園庭部分については、芝生が綺麗ですけど、近隣に児童遊園地という子供の遊び場がありますが、今、近隣の児童遊園地がとても薄暗くて人に見つかりにくくて、利用しにくいところにあります。移転をさせて、ちょっとした保育園の園庭部分については、児童遊園地、そうすれば遊具もそのまま使えますし、外れた西側になりますけど、そこを小規模保育事業所として使う、そんな2つの案を同時に進行しています。

(渡辺会長) 楽しい案を今知って、とてもうれしく思っています。

●コンシェルジュ日より、子育て支援ガイドブックにここにの配布説明

以上